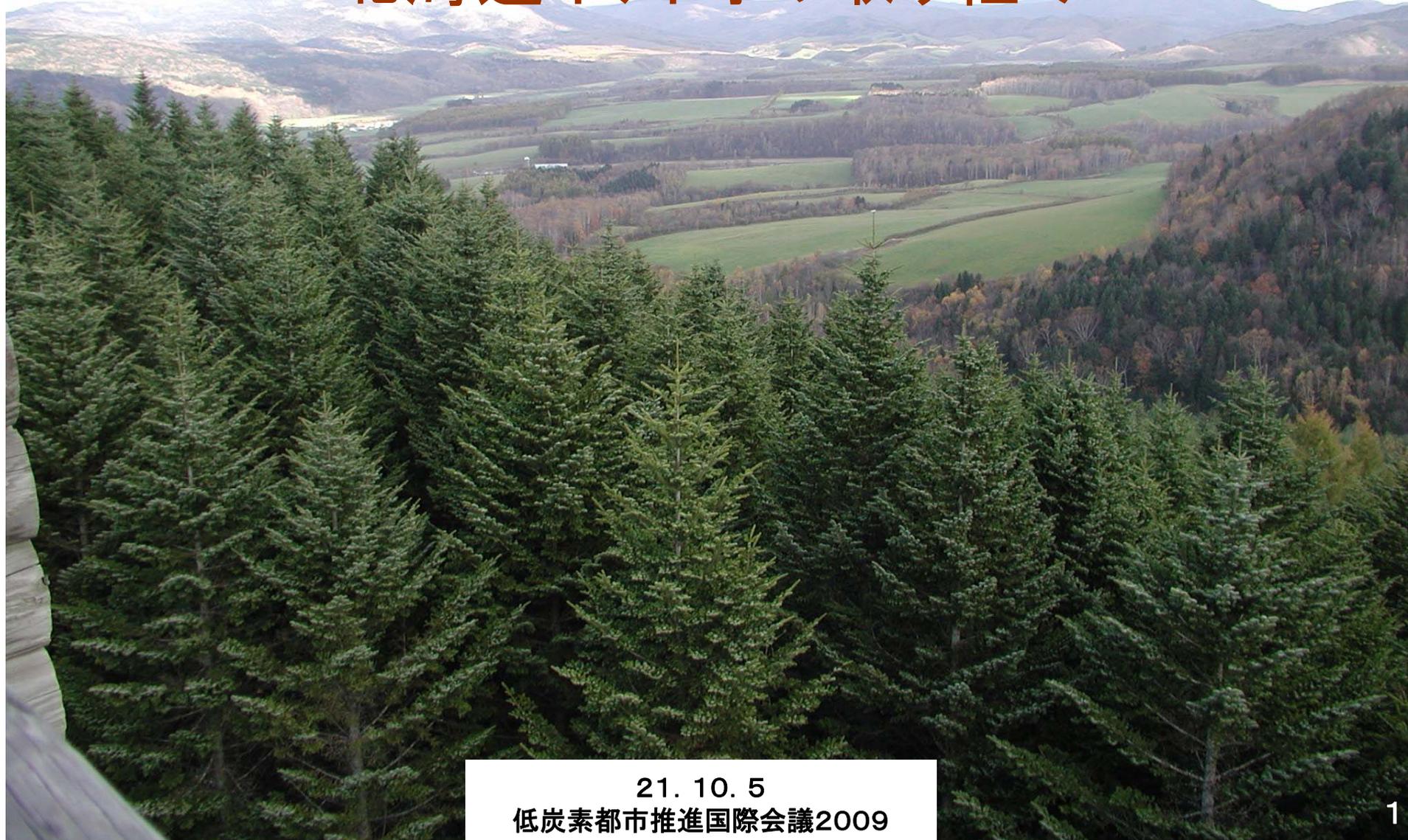


環境モデル都市

～北海道下川町の取り組み～



21. 10. 5

低炭素都市推進国際会議2009

下川町の概要



面積: 644.20km²

森林面積: 582.77km²

人口: 3,773人(2009.8月末)

気温: 夏・冬の寒暖の差は60°C
(夏30°Cを越え、冬-30°Cを下回る)

降雪の合計: 約10メートル

特徴: 森林面積が90%を占める



循環型森林経営

(伐採→植林→育林→繰返す)

循環型森林経営の基本理念

毎年50haの植林(適正管理) × 60年間
= 3,000haの人工林

森林を継続的に整備しながら資源
循環させ、同時に雇用の場の確
保と林産物の供給を継続させる

地域経済への波及・雇用の創出

環境モデル都市

適正な森林管理によるCO₂の大幅吸収
森林バイオマスを活用したCO₂の大幅削減

森林バイオマスエネルギーの集中導入



木質バイオマスボイラー



育苗ハウスの木質バイオマスボイラー



エネルギー資源作物
早生樹「ヤナギ」の栽培



林地に置かれる残材など未利用材等の活用

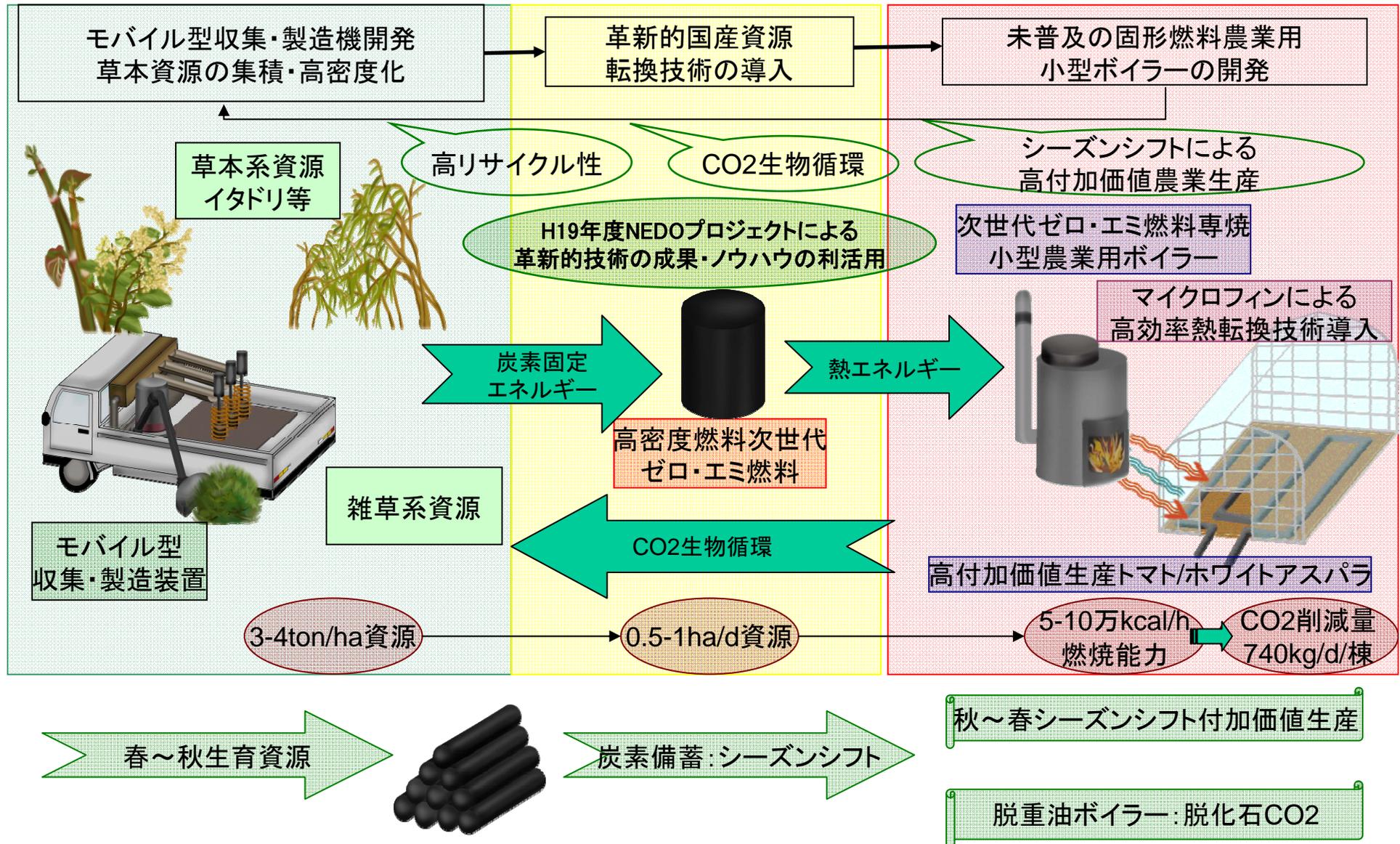


木質エネルギーの原料を製造



木質ボイラーを活用した
地域熱供給施設

新たな地域づくり・低炭素社会の実現に向かって



小規模都市を活かす草本バイオマスによる持続可能な低炭素社会実現

森林吸収量活用のアクション

H09年(1997年)度

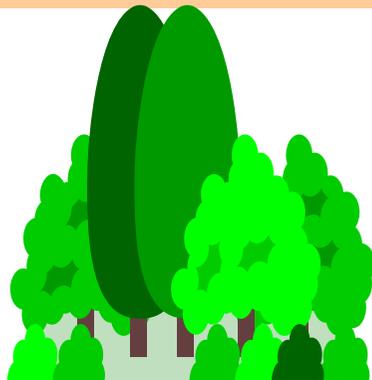
⇒京都議定書採択
森林3.9%
市場メカニズム

H14年(2002年)度

⇒下川町森林吸収量
排出権の海外売買

H15年(2003年)度以降

⇒全国先駆的町村研究会
⇒北海道39市町村研究会



H20年(2008年)度

⇒森林バイオマス吸収量活用推進協議会
(足寄町・下川町・滝上町・美幌町)

目的

地域資源である森林バイオマスの二酸化炭素吸収機能・化石燃料代替による削減効果を活用するシステムの構築による地域活性化を目指す

森林バイオマス吸収量活用制度設計委員会

【委員長 小林紀之(日大)】

H20年(2008年)度

⇒先進地調査
⇒制度設計
①森林吸収源
②排出削減
⇒企業ニーズ調査

H21年(2009年)度

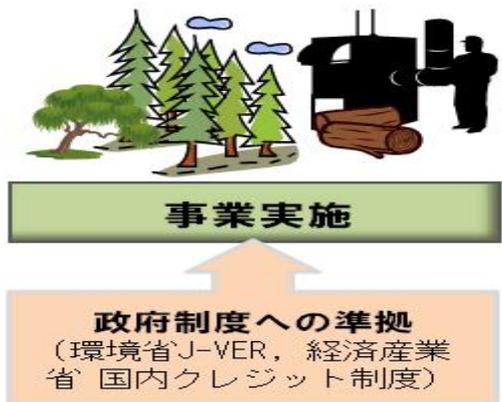
⇒先進地調査
⇒制度設計
③その他地域特性
⇒カーボンオフセット実証
⇒検証・制度見直し
⇒4町協議会のあり方

H22年(2010年)度

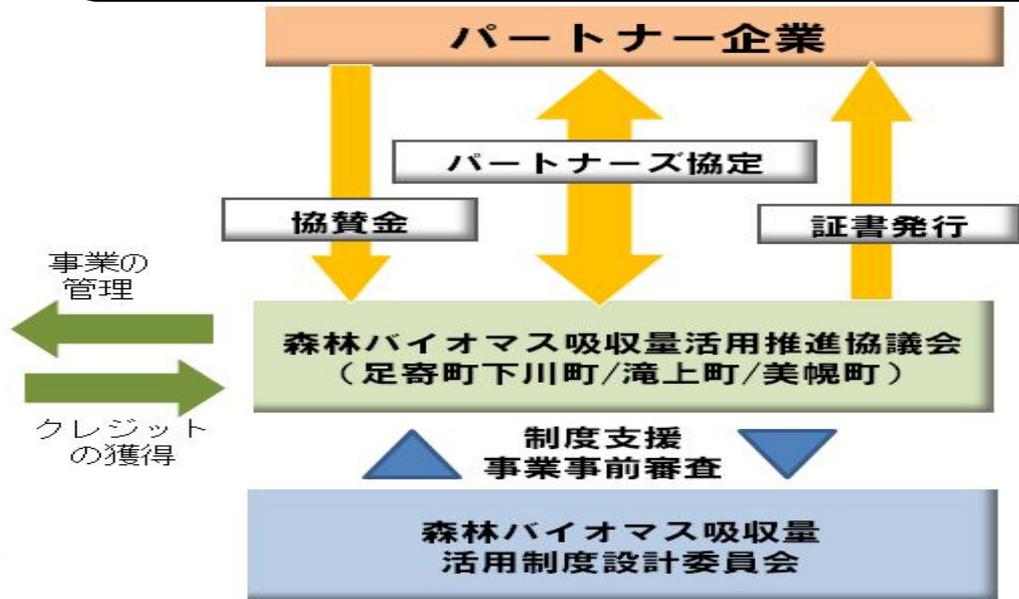
⇒実証・検証
⇒制度見直し
⇒本格的運用に向けた
制度創設
⇒運営体制確立(4町協議会)

低炭素社会の地域連携

～カーボンオフセット実証～



- 2009年
- 4月21日 第1号 more treesと基本協定締結
 - 7月 1日 登録第1号 J-VER制度森林管理プロジェクト
 - 8月10日 第2号 (株)JCBと基本協定締結
 - 9月10日 第3号 全日本空輸(ANA)、more treesと連携



【今後の展開に向けた鍵】

- ① バイオマスエネルギー施設整備費の軽減 ～ 国等の支援
- ② 新たなバイオマス実用化に向けた技術革新 ～ 産学官の連携強化
- ③ 都市・企業と地方のつながりを強化